

事例 41 単元「美術館・博物館で見てきたことを報告しよう」

『ことば力』向上 ～学び合いのできる生徒の育成を目指して～

総合的な学習の時間 第1学年

金沢市立城南中学校

1 事例の概要

本校では、平成18・19年度に石川県読解力向上推進事業研究校の指定を受け、「ことば力向上～読む・聞く・書く・話す力を高め、温かな交わりが出来る生徒の育成を目指して～」をテーマとして、また平成20・21年度に児童生徒の「活用力」向上モデル事業研究校の指定を受け、「ことば力向上～学び合いのできる生徒の育成を目指して～」をテーマとして研究実践を行ってきた。

本校では読む・聞く・書く・話すの4つの力を『ことば力』と定義した。この『ことば力』を向上させることにより、コミュニケーション力(人間関係力)が向上し、さらには学力が向上すると仮説を立てた。『ことば力』は国語の授業だけで身につくものではなく、全ての教科等で身につけるものである。そのため、本校では下記の生徒につけたい力を職員で共通理解し、全ての教科等で「ことば力向上」に取り組んでいる。

生徒につけたい力

① 読む・聞く（読解力・表現力）

- ・正確に理解し、書いてあることをもとにして推論し、熟考・評価するクリティカルシンキング、クリティカルリーディングができること

② 書く・話す（表現力・コミュニケーション力）

- ・テキストに基づいて自分の考えを書く力
- ・グループや全体の前で目的に応じて自分の意見を述べたり、発表したりできる力

2 実践内容

(1) 読書活動の推進

① 朝読書

② 毎週金曜日の朝に実施するリーディングタイム（今年2年目）

- ・A4程度の資料を読み、課題に応じて根拠をもとに自分の意見や考えを文章にまとめる。

③ 新聞記事を活用した授業

(2) 総合的な学習の時間のカリキュラムの工夫

① 「ことばの時間」の実施（各学年20時間）

- ・言語技術習得のための時間を確保する。
- ・生徒の習得した言語技術を教科の授業でも活用する。

② 知識や技能の活用場面の設定

- ・各教科で学んだ知識や技能を活用して、「話す・書く」活動を多角的に実施する。

(3) 授業改善

① コミュニケーション力を高めるグループ活動の導入

② 発問の工夫

- ・何のためにそのテキストを読むのか、そのテキストから何を読み取らせたいのかを明確にする質問が必要である。
- ・主体的に考え、判断しながら理解できるように、内容や意見を批判的にとらえさせる。

- ・資料を読み、根拠を明らかにして自分の考えを言ったり書いたりする。
例「感想を書きなさい」→「一番感動したことは何か、理由を含めて書きなさい」など

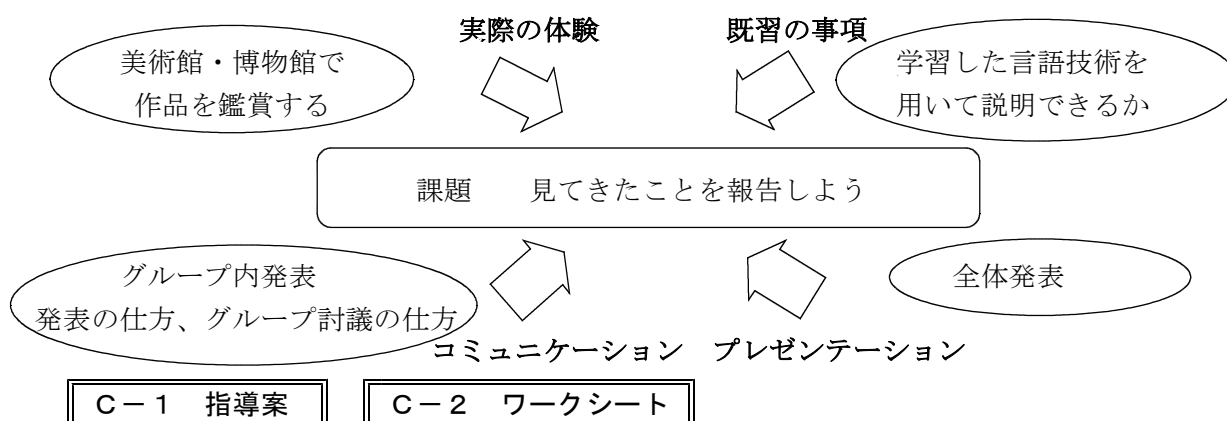
(4) 評価の工夫

- ① 定期テスト、実力テストなどで「読解力」を問う問題を出題する。
- ② 教科ごとにレポート作品での評価を行う。
- ③ スピーチやプレゼンテーションなど発表の評価を行う。

B-1	リーディングタイム課題一覧
B-3	評価問題例

B-2	ことばの時間カリキュラム
-----	--------------

3 指導の実例 総合的な学習の時間における「ことばの時間」指導実践例



4 成果と課題

(1) 成果

- ① 学力調査の結果から
現3年生は本校が「ことば力向上」の研究を始めた年に入学してきた。昨年、一昨年に比べて全国学力調査の「活用」の部分に点数の伸びが見られた。また、県・国の調査で全教科を通して、「思考・判断」「見方・考え方」「書くこと」の項目が特に高い正答率を示している。特に昨年度の課題であった、「資料やテキストを読み取る力が弱い」「文章を書く力が弱い」という傾向については、取組の結果、改善が見られた。
- ② 生徒の意識調査から
読解力(表現力)、言語技術、コミュニケーション力については多くの項目で6割の生徒が自信があると答えている。昨年までの意識調査を経年比較すると「力がついた」「自信がある」と感じている生徒が増加した。
- ③ 授業や作品から
 - ・発表の場を多く設定したことにより、全体的に発表する力がついた。
 - ・グループ活動や発表が円滑に行えるようになった。
 - ・文章を書くことに対する抵抗感がなくなり、表現力がついてきた。

(2) 課題

- ・『ことば力』を評価する問題の作成と実施、検証方法の工夫が必要である。
- ・思考すること、論述(討論・記述)することを面倒くさいと感じている生徒もいるため、今後も授業の中でグループでの討論や、思考し記述する時間を確保し、質の高いコミュニケーション力や記述力を育てていきたい。
- ・学んだことを日常の言葉遣いやコミュニケーションに生かす工夫をしていきたい。